認定特定非営利活動法人 Switch 2016年度 事業報告書

(第6期:平成28年5月1日~平成29年4月30日) 期間:2016年5月1日~2017年4月30日



■はじめに

「多様性を認め合う社会を目指して」法人の理念を再確認した平成28年度でしたが、法人の明確なビジョン・ミッションを可視化することができずもやもや感があった中、内閣府による「社会的インパクト評価」事業に手を挙げ、伴走型支援がスタートしました。そして、わたしたちが日々取り組んでいる事業はどのような価値をもたらすのか・・・について何度も考えてきました。平成29年度から、障害者雇用率は、2、2%に引き上げられ、精神障がい者の雇用の義務化も始まります。その一方で、就職した方々が働きつづけることができるよう定着支援事業の新たなカテゴリーが始まります。被災地沿岸部は、生活再建が進まず苦しんでいる住民もいらっしゃいますし、不登校出現率も高い数字、高校中退率も同様です。それらの社会課題に対して、私たちの活動はどのような課題解決ができるのだろうかと問い続けてきた一年でもありました。しかし、助成金・委託事業・寄付金による事業費が多くを占めた一年であったことは、同時に地域のそれぞれの課題へコミットしながら、持続可能な支援活動につながるものとなったと思っております。これらのアウトカムを次年度に向けてどのようにスケールアップしていくことができるかを考え、今後も地域へ貢献できる法人を目指していきたいと考えます。

認定特定非営利活動法人 Switch 理事長 高橋由佳

■平成28年度 事業成果のまとめ

平成 28 年度は、障害福祉サービス事業については仙台、石巻、2 拠点体制で迎える 2 年目の期となりました。

スイッチ・センダイについては、前半の利用者の伸び悩みはあったものの、後半に向けての利用者数の増加や、就労希望者の参加日数の増加により、結果として高い就職実績を実現することが出来ました。

スイッチ・イシノマキに関しては自立訓練事業所として就労だけの枠組みではなく幅広く自立に向けた活動を進め、被災地特有の生活課題に対応した事業を展開しました。

ユースサポートカレッジ仙台 NOTE, 石巻 NOTE では、インターンシップや有給職業体験プログラムに取り組むとともに、福祉の枠に捉われない就労支援の可能性を模索してまいりました。

9か月間にわたった調査事業「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」 事業においては、石巻 NOTE の就労支援の有効性や、地域企業へのインパクトの大きさを確認すること が出来ました。

財務状況に関しては 2014 年、2015 年度と経常減額決算という形となっておりましたが、2016 年度は 2 期ぶりの経常増額という形で決算を終えることが出来ております。

今回過去5年間の財務状況の確認を行ってまいりましたが、寄付金、助成金、事業収入など、主要な財務指標は、おおむね増額することが出来ており、今回正味財産も増額ということで、安定した財務基盤が構築されてきていると考えられます。

東日本大震災から6年が経過し、復興のフェーズも刻々と変化して行く中、仙台と石巻という異なる地域特性の中で、「まなぶ」「はたらく」という部分をキーワードに、今後も若者の課題解決に向け活動を進めてまいります。

認定特定非営利活動法人 Switch 事務局長 今野純太郎

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
会費収入	245,000	35,000	105,000	105,000	105,000
寄付金収入	105,000	256,000	704,000	984,868	2,520,847
助成金·補助金収入	1,270,332	8,797,281	8,988,565	16,607,581	19,032,983
事業収入	40,517,154	49,943,928	68,382,230	58,795,494	71,929,393
その他収入	1,079,191	1,146,296	1,146,768	2,496,666	1,706,065
経常収益合計:	43,216,677	60,178,505	79,326,563	78,989,609	95,294,288
事業費	12,869,431	871,303	2,899,731	2,379,893	587,000
管理費	21,477,447	52,545,168	79,594,877	88,082,568	85,615,035
経常費用合計:	34,346,878	53,416,471	82,494,608	90,462,461	86,202,035
経常増減額:	8,869,799	6,762,034	-3,168,045	-11,472,852	9,092,253
正味財産増減額:	8,869,799	6,762,034	-3,168,045	-11,472,852	9,092,253



事業の実施に関する事項

- I. 就労移行支援・自立訓練(生活訓練)に関する事業 (1)障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」就労移行支援
- (成果と今後の課題)

スイッチ・センダイでは平成 28 年度 37 名の就職者 (A型移行者含む) が出ている。また以前より課題とされている、就労後の定着支援という点では、訪問型ジョブコーチ事業と連携し就職後の定着支援

を行っている。平成30年より新設される「就労定着支援」の動向に注視していきたい。

平成 28 年度も継続して仙精連から 2 回目の助成を受けOB会の実施とOBと利用者が交流できる日を 設けており、精神疾患、障害を持ちながら働いている方への、就労定着と余暇支援の一助としている。

全国的に就労移行支援事業所は就労実績が上がらない事業所と就職実績が高い事業所との二極化が課題となっている。仙台市内の就労移行支援事業所は平成29年6月現在39か所あり、社会の雇用ニーズ拡大や障害者法定雇用率の引き上げに対し、事業を開始する事業者も増えていることから、より一層スタッフの資質、サービスの向上、福祉の枠を越えた関わりが必要になってくる。

また、平成 29 年厚生労働省より大学生が就労系サービスを利用できることが明記されたため、大学との連携も行っていく。そのことを受け、法人内他事業との兼ね合いを鑑み自立訓練(生活訓練)は平成 28 年 6 月末に廃止、より就労支援に特化したサービス提供を行っていくことを目指す。

平成28年度相談件数(106件)

10代	20代	30代	40代	50代	60代
6	48	27	18	6	1

男女比

男性	女性
59	47

紹介元

行政機	相談支	医療機	ハロー	パンフ	学校	НР≯	知人·	他福祉	その他
関	援機関	関	ワーク	レット		ディア	友人・	サービ	
							家族	ス	
14	11	29	3	7	5	14	9	9	5

その他の内訳

会計士、元利用者、再インテーク

平成 28 年度在籍者数

就労移行支援(75名)

10代	20代	30代	40 代	50代	60代
1	37	18	15	3	1

男女別

男性	女性
34	41

就職者状況(平成29年3月31日)

開示	非開示	合計
15	22	37

OB会・交流会参加人数 (のべ)

金曜日開催	土曜日開催	合計
43	109	152

●施設内プログラム

・ウォーキング・アートプログラム・CBT (認知行動療法)・PC講座・就活講座・コミュニケーショ

ン講座・ジョブコーチと話そう・パンフレット封入作業・ヨガ・OB交流会等 コミュニケーション講座 OBと利用者の交流会





避難訓練実施の様子



- ♦外部講師を招いての特別講座
- ・就活ボイス講座・アロマ講座・歯と口の健康づくり
- アロマ講座

・歯と口の健康づくり





- ●外部機関と連携した講座
 - (株) アルビオンと連携して行った就活メイク・マナー講座



スイッチ・センダイ 管理者 山下祐史

(2)障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」

スイッチ・イシノマキ 管理者 田口雄太

● (成果と今後の課題)

石巻にて開所して 2 年目となる。今まで石巻になかった新しいタイプの事業所として徐々に認知されて きている。特に医療機関からの紹介が多く、圏域の医療機関からの期待感を感じる事ができる。

インテーク数に対して新規登録に至る人数が少ないが、自立訓練(生活訓練)の性質上、就労目的のみの利用者等は地域の他機関にリファーするケースも多い。

28年度は就職者2名(開示1名、非開示1名)を出すこともでき、地域からも一定の評価を得る事ができた。

4月時点での登録者は10名と前年度より増え、事業所レイアウトの変更を行っている。

最終的な目標として就労を希望される方も多く在籍されている事から、就業・生活支援センターや地域 の相談支援事業所との連携を密に取る事で強化することができた。

また、市の生涯学習課のプログラムを利用し、外部の方が講師を務めるプログラムの実施や、夏季には市の施設を利用したレクリエーション企画。利用者が主体となって企画、実施を行う自主活動など、バリエーション豊富に、地域と関わる機会や自主性、個別性を創出することができている。

課題としては、今後より多様なニーズが想定されるなかで、自立訓練としての領分をわきまえながらも、 生活リズムを作る、入浴や排せつ等の従来の訓練以外の柔軟な利用が可能になるよう、この 2 年のスイッチ・イシノマキでの活動の成果や可能性をもとに、市をはじめ圏域に働きかけていく必要があると考える。

⋄実績

登録者数	10名(29年	10 名 (29 年 4 月末時点)					
.新規利用者数	9名						
インテーク者数	22 名 ※内部	Rは下記表参照					
退所者数	7名	目標達成 3名(就職・・開示、非開示各1名、地域移行1名)					
这 所有数	<i>1</i>	体調不良 4名(入院2名、療養2名)					

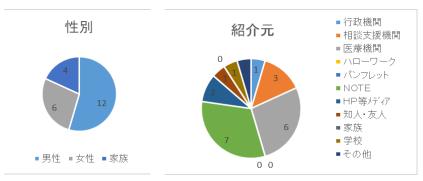
28年度は就職による退所者が2名おり、自立訓練から就職者が出る事に対して地域から驚きの声が聞かれた。同時に、活動開始時の目標を達成したため地域の他機関を利用しながら生活する退所者もおり、従来の自立訓練(生活訓練)としての機能を果たしている事の証明にもつながっている。

H28年度(H28年5月~H29年4月)インテーク総数

インテーク総数22名左記の内利用につながった人数9名(41%)

	内訳										
	年代							性別			
10代		20代	30代	40代	50代	60代	男性	女性	家族		_
	4	8	6	4	0	0	12	6	4		
	紹介元										
行政機関		相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	NOTE	HP等メディア	知人·友人	家族	学校	その他
	1	3	6	0	0	7	2	1	0	1	1





●活動内容

NOTE をきっかけに、通所に繋がった方が 1 番多いが、ほぼ同数の医療機関からの紹介があり、医療機関からの期待が伺える。

【個別ワーク】

・個別の自立の為の目標を達成するために、各々に必要な活動を取り入れ積極的に行っていく活動。

【プログラム】

・体調管理系のプログラムや、就職活動系プログラム、金銭プログラム等により、自己理解、目標達成の 為のスキル、生活スキル向上の為のプログラムを実施。またファームを利用したアセスメントと余暇活 動の実施。

【外部講師】

石巻市:市立病院薬剤師による薬の飲み方 歯科医による訪問歯科検診 メイクマナー講座



薬剤師による薬の飲み方講座



歯科検診

【自主活動】

・利用者の自主性や、希望等を形にする過程の確認、他者との協働作業等を体験できる機会として活用。トレッキングや花見、調理プログラム等実施

その他、季節等に合わせた行事等を行い、楽しみながらも一人ひとりの自立に向けた活動を行っている。同時に、実施者の興味関心に基づくプログラムになる為、自己肯定感の向上につながっている。





鱈鍋作り

市民公園でのバーベキュー

ごはんのお供ソムリエ

【その他の活動】

卒業後の活動場所の一つである他事業所の見学会や地域の活動補助として七夕飾り作りやお祭り運営の 手伝い等、事業所外に出ての積極的な地域活動を実施。



事業所見学



七夕飾り作り



福祉祭りの手伝い

スイッチ・イシノマキ 管理者 田口雄太

Ⅱ 思春期・青年期を中心とした就学・就労支援(1)ユースサポートカレッジ 仙台 NOTE

◆成果と今後の課題

今年度も昨年同様「みやぎ地域復興支援助成金」による『みやぎの「はたらく」「つながる」応援プログラム 事業(第二期)』にて、①被災者就労準備支援事業②中間的就労創出事業③出張型就労支援事業の3つ の柱を軸に、圏域の被災若年者への就労支援事業を実施した。

具体的には昨年に引き続き宮城野区榴岡の「仙台NOTE」を拠点とし、思春期や青年期の不調を抱えた1 0代から30代の若年者を対象に包括的就労支援を行うユースサポートカレッジを設置。4ヶ月間を1ターム とした短期集中型の就労支援プログラムを2期に渡り実施、32名の受講生に対し42.4%が就職、15.2%が就学復学を遂げ、24.2%が就職活動に一歩踏み出し現在継続して活動中ということで、全体の8.0%が就労に向けての動きを加速することができ、一定の成果を上げることが出来た(①②事業)

出張型就労支援においては、震災から6年が経過し仮設住宅から復興公営住宅への移転が進む中、次なる段階として長期的な生活の見通しを立てるためには就労の安定が必要不可欠であり、ニーズの多い6地域に渡り、近隣のハローワークに行くまでに物理的・精神的に距離を感じている方々に対し、居住エリアの近くで出張パソコン講座と個別就労相談を展開した。

具体的には宮城県社会福祉協議会震災復興支援局と協働し、地域社協(気仙沼市社協、多賀城市社協、塩釜市社協、七ヶ浜市社協、石巻社協、東松島市社協)とのパイプを作った。又昨年実績のある仙台市社会福祉協議会中核支えあいセンターと連携し、復興公営住宅の見守り支援の流れの中で就労に課題を抱える被災者の支援を行った(③事業) 震災を機にひきこもりがちになり社会と接点が持てない被災者や、就労の機会を失ってしまった若年層に社会と繋がるきっかけを作り、学びの場を提供し就労への意欲を高めるという意味で、一定の成果を残すことができた。

今後の課題としては、1つ目は大学生の利用が増えている背景から、グレーゾーンの学生や休学中の学生に対する就労支援、中退予防支援に関する大学との連携強化と、受入に伴うインターンシッププログラムの強化が上げられる。2つ目は出張型就労支援の強化である。昨年実施する中で、ひきこもりがちになる無業者が再び外に出るきっかけとしてパソコンは有効な手段であり、各地域の支援機関からも今年度の開催に対するご要望の声を頂いていることからニーズは高く、就活情報に乏しい被災圏域に対する支援を強化していく。

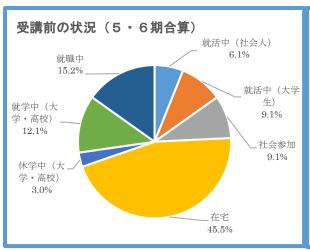
◆ユースサポート事業(被災者就労準備事業·中間的就労創出事業)

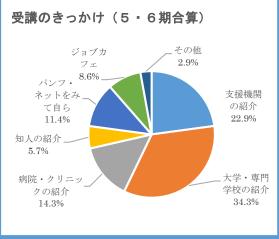
■利用者数 35名(延べ人数973名)

5期生(平成28年 6月 1日~平成28年9月30日):18名 6期生(平成28年10月11日~平成28年2月24日):16名

- ■就職決定者数 14名(昨年度13名)
- ■相談件数 324件(目標 180 件)
- ■キャリアカウンセリング件数 147件(目標 180 件)
- ■企業開拓 8件(昨年度12件)
- ■仙台NOTEパンフレット 2000部制作
- ■受講生の状況(利用前)

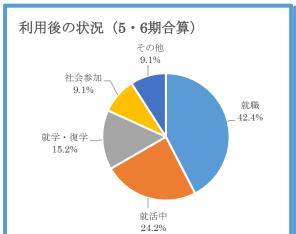


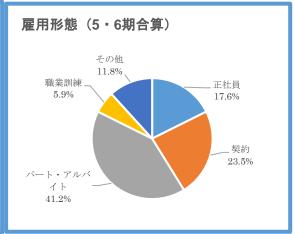




- ・社会参加とは週2回程度の外出、在宅とはそれ以下で在宅中心
- ・就学中(大学・高校)とは休学中または不登校における 学校配慮制の元での登校
- ・大学や専門学校などからの紹介が増えている。
- ・支援機関とは行政(ハローワーク・生活保護課・社会福祉課)、社協・保護観察所等

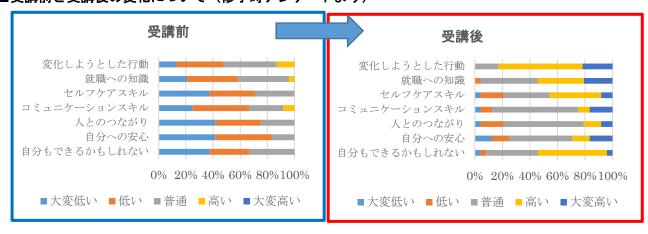
■受講生の状況(利用後)





- ・受講生全体の8割が就職・就学復学・就活へのアクションを開始
- ・就職者14名のうち約4割が正社員・契約社員にて採用

■受講前と受講後の変化について(修了時アンケートより)



■具体的な活動内容

【Descoveryコース】講義形式で就活・就労への基礎力をつける。生活のリズム作りにも効果大であった・オリジナル講座

認知行動療法・メンタルヘルス・コミュニケーション講座(ソーシャルスキルトレーニング)・WRAP・ 就活講座・ソーシャルマナー講座・パソコン講座(若者アッププロジェクト・フリーレッスン)・アートセ ラピー・入門ヨーガ・ビブリオバトル・LEGO シリアスプレイ









・特別講座(自分磨き)

就活カラー講座(外部講師)、アロマテラピー講座(外部講師)、ボイストレーニング講座(外部講師) スノードームワークショップ、体を知ろう! 講座、インターン生による中国語講座・栄養講座









【WorkOnコース】 インターンシップ延べ参加人数 236 名。

目標180名を大きく上回る結果となり、就労意欲の向上に大きく貢献できた。実習先は17件。

- ■不動産会社:事務補助 ■物流会社:事務補助・倉庫業務 ■飲食店:調理補助・接客
- ■高齢者介護施設(デイケア・老健):介護補助 ■社会人資格取得専門学校:事務補助・ポスティング
- ■営業マーケティング会社 ■農業:農業体験 ■ART活動NPO法人 ■福祉事業所 ■警備会社



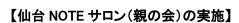






【受講生による活動報告会】

4ヶ月の受講期間を振り返り、自由なテーマで自身の活動内容を報告する 卒業発表会を実施。堂々とプレゼンテーションをする姿に大きな成長が見られた。



仙台 NOTE での活動報告を行い、保護者の方々との交流の場を設けた。





◆出張型就労支援事業(被災地向け出張パソコン講座)

ニーズのある被災圏域にて出張パソコン講座とお仕事相談会を実施。

震災を機にひきこもりがちになり社会と接点が持てず、そのまま就労の機会を失ってしまった若年者を中心に、 社会と繋がり学びの場を提供するきっかけを提供。一定の効果を残すことができた。

一例として、震災を機に高校卒業後から長年引きこもっていた若者が、出張パソコン講座の参加がきっかけで そこから仙台NOTEの利用に繋がり、自立に向けての訓練や職業体験を通して就職活動へ一歩を踏み出す ことができたケースは、事業目的に叶った成果であり、まだまだ活動の需要はあると実感している。

①仙台地区

実施日時: 平成 28 年 10 月 5 日 · 12 日 · 18 日 · 26 日

実施場所:仙台市福祉プラザ

実施内容:Word・Excel・Powerpoint・個別お仕事相談

述べ参加人数: PC 講座24名・個別相談3名

協力団体名:仙台市社会福祉協議会中核支え合いセンター(共催)

※この後、仙台市の復興公営住宅と地域のコミュニティ活性化のための「つなぐ・つながるプロジェクト(つなぷろ)」支援団体に登録される



②石巻地区

実施日時: 平成 28 年 12 月 26 日・27 日・28 日・平成 29 年 1 月 5 日

実施場所:ユースサポートカレッジ石巻 NOTE

実施内容: Word・Excel・Powerpoint・プログラミング・個別お仕事相談

述べ参加人数: PC 講座 10 名・個別相談 1 名

協力団体名:石巻市教育委員会(後援)・石巻市役所(生活保護課・生活再建支援課他)

石巻ハローワーク・宮城県東部児童相談所・石巻市社会福祉協議会 他)

③多質城・塩釜・七ヶ浜地区

実施日時: 平成 29 年 1 月 12 日・13 日・20 日・2 月 3 日

実施場所:多賀城市市民活動サポートセンター

実施内容:Word・Excel・Powerpoint・個別お仕事相談

述べ参加人数:21名・個別相談5名

協力団体名:多賀城市社会福祉協議会・塩釜市社会福祉

協議会・七ヶ浜市社会福祉協議会・

多賀城・塩釜・七ヶ浜各市役所(社会福祉課・

保護課・地域職業相談室等)・各ハローワーク等





4岩沼地区

実施日時: 平成 29 年 1 月 16 日 · 23 日 · 30 日 · 2 月 6 日 · 7 日

実施場所:岩沼市福祉センター i あいプラザ

実施内容: Word・Excel・Powerpoint・個別お仕事相談

述べ参加人数: PC 講座 4 名・個別相談 1 名協力団体名:岩沼市社会福祉協議会(共催)



⑤東松島地区

実施日時: 平成 29 年 3 月 9 日・10 日・13 日・14 日

実施場所: 東松島市老人福祉センター

実施内容: PC 入門・Excel

述べ参加人数:7名

協力団体名:東松島市社会福祉協議会・東松島市役所

ハローワーク等



⑥氢仙沼地区

実施日時: 平成 29 年 3 月 17 日

実施場所:スクエアシップ(気仙沼 海の市)

実施内容:パソコン入門・Excel

述べ参加人数:6名

協力団体名: 気仙沼市社会福祉協議会(後援)

NPO 法人底上げ・ 気仙沼市役所・ハローワーク等



認定特定非営利活動法人 Switch 常務理事 小関美江

(2)ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

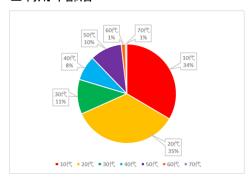
● (成果と今後の課題)

当法人は平成 25 年から石巻市にて「ユースサポートカレッジ石巻 NOTE」を展開し「未来志向型インターンシップ」を開始。震災からの復興を目指す地域の企業や、農林水産業、そして地域行政や他の支援団体と連携を進めながら、石巻圏域にてこころに不調を抱えた方々の就労支援を展開してきたが、活動を進める中で、以下の新たな課題が見えてきた。そのひとつが社会的弱者の存在である。わたしたちの支援のベースは、困難を抱える若年者の就労支援に特化しているものの、そのご家族の背景を伺うと、震災後、無業者になったままの保護者がいること、そのメンタルサポートが取り残されたままでいることにあることから、地域の団体と連携を図り若者を支えるソーシャルワークの観点で彼らを支える仕組みが必要となる。それらは当法人の強みでもあることから、以下の支援事業を展開してきた。

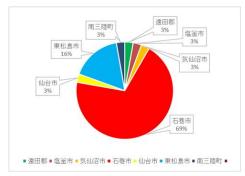
- ①東日本大震災によってこころに不調を抱えたり、社会的居場所を失った若者が、震災後の深刻な人材 不足に悩む地域産業の将来的な担い手として活躍できるよう、インターンシップを通して育成していく ことを目的とする。
- ②就労支援を通じて、家族を包括的に多職種・多団体で支えるネットワーク機能を強化
- ③地域産業の力を活かした人的資源の活用をしながら、伴走型職場体験の機会をさらに拡大、被災地における就労支援モデルを確立させる。

上記の取組みを通して、被災地特有の就労課題を抱える石巻圏域にて、今後も長期的な若年者就労支援 体制の構築を持続する。

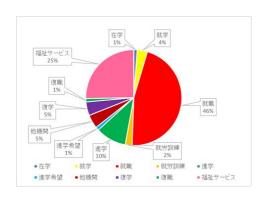
■利用年齢層



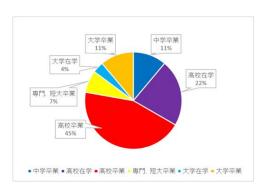
■利用者の地域属性



■利用後の進路



■通所時の学歴



【コンポーネント1】就労準備支援

目的

- ・圏域無業者と人材不足に悩む地元企業とのマッチング
- ・就職活動に踏み出すことを躊躇する無業者が活動を再開する事。

就労準備支援事業に関しては、石巻駅前にて、日常的に就労相談が出来る窓口を設置し、利用者数 1343 名と、多くの方に利用いただき、17 名の就労決定者を出すことが出来た。

事業の中では相談だけではなく、震災の影響で引きこもりがちになる方々に対し、一歩踏み出すためのプログラムも展開し、合計 354 名の方々に受講いただくことが出来た。

①一歩踏み出すためのプログラムの展開

- ・パソコン講座 202回:日本マイクロソフト様からのライセンス供与を受け、認定トレーナーによる 講座を展開。終了後に資格取得を目指す方も多かった。Windows10,Office2013 という最新の環境で プログラムを実施。パソコンを学ぶことを外に出るきっかけにすることが出来た。
- ・アートセラピー講座 37回:ただ単に絵を書くだけのプログラムではなく、イラスト鑑賞なども取り 入れ、より本人たちの志向に合わせるプログラムの展開を目指した。
- ・就活講座 18回:就活で必要な基本的なスキルや、面接対策などを、総合的に学び、その後の 就労に繋げることが出来た。
- ・ウォーキング講座 48回

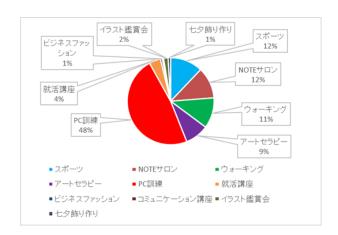
今年度もウォーキングを展開。市内中心部を中心に取り組むことが出来た。

•NOTE サロン 49回

今年度は新たな取り組みとして NOTE サロンを企画。利用者が車座になり、それぞれの近況を話し合うことで、コミュニケーションカの強化を図ることができた。







②インターンシッププログラムの展開

・インターンシップ実施件数 149件

インターンシップは石巻市内の支援団体や民間企業などにて、職場体験の機会をつくり、今回 149 件のインターンを実施することができた。

一般企業だけではなく、仮設住宅における新聞配布や、被災地での雇用創出のための弁当店など、 被災地支援事業にも関わることで、利用者も地域の実情を知ることが出来、自分たちの住む地域の 未来を考えるきっかけになったと考えている。



③有給職業体験プログラムの展開

・有給職業体験プログラム実施件数103件

今回有給職業体験に関しては、103回という実績を上げることが出来た。実際の企業の中に入り、有給で仕事を経験する中で、そのまま長期雇用につながった方も多く、就労支援という観点からも実効性は高かったと考えている。今後も現在就労中の方のフォローアップを進めていくこととする。



【コンポーネント2】中間就労の創出

目標

- ①定期的に中間就労の場で活動することで就労意欲を醸成する。
- ②中間就労の場で自己肯定感を高めたのちに一般就労を目指す。

今回は農業と水産業の現場にて、中間就労の場を展開することが出来た。

農業:391回

水産業:22 回

インターンなどの単なる職場体験ではなく、多少なりともお金が発生することで、本人たちの責任感の向上が促された。



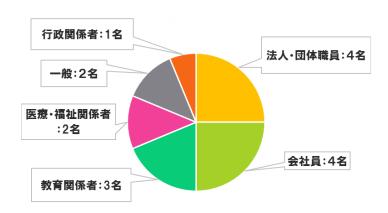




【コンポーネント3】いしのまきはたらくサポーター養成講座の開催 ①こころの健康を学ぶ講座 全7回実施 「心の健康を学び、自身のセルフケアを考える。

講座内容

- ・ストレスコントロール
- ・自分の考え方のクセを知る
- ・睡眠、仕事と休暇のワークライフバランス



②ジョブコーチによる職場で働く方々へのサポート講座 ジョブコーチのスキルを参考とした職場でのサポート。 人材育成の一環としてスキルアップ。

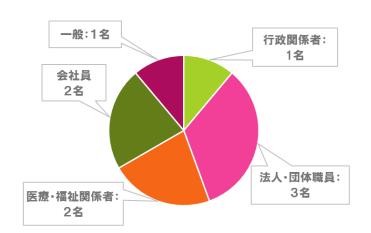
講座内容

- •合理的配慮
- ・相手の立場に立ってわかりやすく教えるスキル





・グループワーク(課題分析と問題解決)





③コミュニティワーク実践講座

縁あって石巻に移住し、各分野・立場で活躍されている方々をお招きし、 「なぜここで働いているのか」をテーマに"はたらく"を考える場を展開





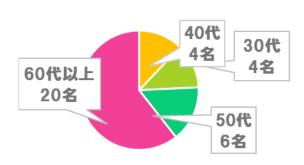




④移動なんでもよろず相談所 全 12 回開催

石巻圏域各所にて、移動式の相談所を展開。震災後の家族、進路、仕事、人間関係などの悩みを受付、傾聴する。





家族、人間関係

- 子どもの進路への不安・心配(学力・人付き合い)
- 家族・職場等、他者とのやりとりへの疲弊感の吐露

震災後の 生活状況の変化

- 独居による孤独感と外部との関係性の希薄化
- 自分自身のこれからの生活、身体・体調への不安

相談先が わか<u>らない</u>

- 自身の問題に活用できる地域資源かがわからない
- 場所が近い、知り合いがいる→周囲に噂が広がる 不安感

⑤いしのまきはたらくサポーターセミナーの開催

~地域で多様な人びとが働き続けるために私たちができること~

「その島のひとたちはひとの話を聞かない」の著者でもあり、

精神科医として地域に根差した活動を行っている森川すいめい氏をお招きし

会全体でオープン・ダイアログを展開しながら、参加者同士で意見を出し合い深めた。

認定特定非営利活動法人 Switch 常務理事 今野純太郎

Ⅲ 研究·研修事業

(1)各種研修

H28 年 8 月 認知機能リハビリテーションと就労支援研修会 in 帯広 講師 (小野)

H28年12月 宮城県サービス管理責任者講習会 講師 (小野・田口)

H28年度 NPO 法人アスイク 支援スーパービジョン 12回実施(対象スタッフ3名)

(2)職員研修

29 年度は職員研修を4回実施した。今年度より、研修ワーキンググループを作り、ワーキング内で 法人スタッフとして必要な研修を企画、実施した。また、ワーキンググループより、佐藤・小野寺が 精神障害者リハビリテーション学会への口頭発表も実施した。

① 「宿泊研修」 28年6月10日~11日 14名参加

場所:箱根山テラス(陸前高田市)

1日目:地域のNPO活動を知る

講師 ・箱根山テラス 代表長谷川氏

・吉田理事 特定非営利活動法人くらしのサポーターズ 事務局長 三重県の事例の紹介

2日目:・広報、ファンドレイジング、研修のワーキンググループ活動

・法人のミッション再確認



- ② 「自己探求からの相互理解」ワーキンググループ主催 28年9月14日 17名参加 ・自分史の作成、転機になる写真や物を持参し、全体共有 進行:小野
- ③ 「事例検討会」 28年12月9日

講師 : みやぎ心のケアセンター 地域支援部長 福地 成 先生(精神科医)

参加者 : 16 名

事例提出者 :

① 「活動量は多いが就労に踏み出せない成人女性への働きかけ」石巻NOTE 高坂

② 「調子が悪くなる可能性があるが、伝える必要がある場合、どのように伝えればよいか」 スイッチ・センダイ坂下

事例へのSVと講師より「対人支援の勘どころ」の講義

④ 「調理実習」 ワーキンググループ主催 29年3月3日 場所:エルパーク仙台 調理室 参加者 15名 3 班にわかれ、予算内で買い物から調理までを担当。



28年度 研修ワーキングメンバー 小野、佐藤、小野寺、坂下、坂上

(1) 学会、講演など

H28年7月 福祉人材フォーラム 登壇(高橋)

H28 年 10 月 書籍: Q&A で理解する就労支援 IPS ~精神疾患がある人の魅力と可能性を生かす就労支援 プログラム (山下・田口 執筆)

H28 年 10 月 精神科臨床サービス第 16 巻 3 号~認知機能リハビリテーションは就労支援にどのように役立つのか~ (小野寄稿)

H28 年 10 月 明治大学 公共経営学科 特別講義 (高橋)

H28 年 11 月 第 24 回精神障害者リハビリテーション学会 口頭発表 (佐藤・小野寺)

H28 年 11 月 第 24 回職業リハビリテーション研究・実践発表会 口頭発表(小野)

H28年11月 就労支援 IPS 協働学習会(東京)登壇 (山下)

H28年11月 第55回宮城県精神保健福祉大会 シンポジウム登壇(高橋)

H28年12月 石巻の明日を創る!「ともいき」シンポジウム〜復興支援から困窮者支援へ〜パネリスト(今野)

~H29年2月 宮城教育振興審議会審議委員(高橋)

H29年2月 石巻教育セミナー 石巻専修大学 パネリスト (今野)

H29年3月 働く精神障害者からのメッセージ発信事業 パネリスト (小野)

H29年3月 第5回「みちのく復興事業シンポジウム」登壇 (高橋)

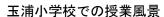
H29年3月 日本社会精神医学会 ポスター発表(高橋)

Ⅳ 学校メンタルヘルスリテラシー教育における授業の実施

主体:みやぎこころのデザイン教育実行委員会(SCOPE)

宮城県恊働教育プラットフォーム事業の委託を受け、県内小・中・高校でのこころの健康を学ぶ授業 を実施、評価委員の設置に伴う評価委員会なども実施してきた。

石巻高等学校3学年授業









依頼校の授業実施 2016年7月~11月の状況 依頼を受けた学校へ事前打ち合わせを行いながらキストの作成をする。授業実施においては、

クラス単位、学年単位、学校単位などの要望を聞きな がらすすめていく。 【実施校】

岩沼市玉浦小学校 栗原市瀬峰中学校 塩竈市玉川中学校 宮城県石巻高等学校

また、授業参観による保護者も同席の授業実施を増やしていくためのアプローチも行っていった。

◆瀬峰中学校にて授業参観実施(全校生徒対象)

市町や社会福社会福祉協議会との協働事業の実施 2016年11月 福祉教育の一環で実施する市町については、社会福祉協議会などと、協働で実施する予定。 それによって、地域住民もサポーターとして参加しやすいワークショップ形態となる。

- ◆岩沼市と社会福祉協議会にて福祉教育の一環として実施(4年生対象)
- ◆ これからの学校メンタルヘルス教育セミナーの実施平成29年2月4日 東北電子専門学校 参加者数 45名講師:阪中 順子氏(四天王寺学園 スクールカウンセラー 臨床心理士)



Ⅴ その他事業

(1)ジョブコーチ支援事業

(1) ジョブコーチ支援事業

実績【H28年4月~平成29年3月】

新規実施件数 9件

継続実施件数 4件

支援回数 183 日

平成 28 年度 訪問型職場適応援助者の登録 小野、越後、三上

今年度は、13名の対象者、12事業所に訪問型職場適応援助者による支援を183日実施した。新規ケースでは、宮城障害者職業センターとのペア支援が3件実施、他6件は法人単独支援で実施した。

昨年度より訪問型職場適応援助者による職場定着支援に力をいれており、今年度でその基盤が固まった。平成30年に開設されることが決まった障害福祉サービス事業の「就労定着支援事業」を睨み、法人内ではさらにジョブコーチを増やし、多くの需要にこたえられるように整備していく。

ジョブコーチは、訪問型職場適応援助者としての活動のみならず、法人内の実習観察や職場開拓など、そのスキルを法人にかかわる対象者全てに活かすことが次年度の目標とする。

(2)助成事業

〇住友商事株式会社

東日本再生ユースチャレンジプログラム

- ・インターンシップ奨励プログラム (平成 28 年 7 月~平成 29 年 3 月)
- 〇ジャパンプラットフォーム「共に生きる」ファンド
- ~いしのまき若年者未来志向型インターンシップマッチング事業~
- 〇宮城県地域復興支援助成金
- ~みやぎの「はたらく」「つながる」応援プログラム事業~
- 〇日本マイクロソフト社「若者 UP プロジェクト
- 宮城県内各所にて開催
- ○復興庁「こころの復興事業」
- ・いしのまきフードアクションプロジェクト
- 〇宮城県共同参画社会推進課
- ・NPO 等の絆力を活かした復興、被災者支援事業

(3)委託事業

東北工業大学ライフデザイン学部 安全安心デザイン学科2年生対象

- ・キャリアデザイン講座(生活デザインセミナー皿)全 14 回(前期 7 回、後期 7 回)
- 宮城恊働教育プラットフォーム事業 (みやぎこころのデザイン教育実行委員会 SCOPE)

実施校 4 校 評議委員会 2 回 教育セミナー1 回 実行委員会 6 回

(4)その他

【研究協力】

・文部科学省若手研究(B)「日本版 IPS/援助付き雇用フィデリティ尺度の検証とフィデリティ評価システムの構築」スイッチ・センダイ 参加

【実習等】

- ・仙台市教育委員会 東華中学校 職場体験実習 2名受け入れ
- · 精神保健福祉士実習

東北文化学園大学4年2名、東北福祉大学4年1名 受け入れ

- ・内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」事業参加
- ■今年度、NPO 法人 Switch は内閣府による 「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営 力強化調査事業」に参加。これまで展開してきたユースサポートカレッジ石巻 NOTE 事業のうち、平成2 6年度、27年度の事業評価を行うことが出来た。最終的なインパクト評価はインパクトレポート資料 を確認いただければと考えているが、大まかなインパクトは以下の通りとなる。

今回の評価を行うことで、これまで展開してきた石巻 NOTE 事業の社会的インパクトを評価することが 出来た。仙台と東京都内で報告会を行い、2か所で200名程度の動員があった。

「はたらく」に課題を抱えた若者に対するインパクト

通所を促し 引きこもり解消 ■引きこもりが解消、 外出が増えた 80x



社会的価値 約1.297万円/年 試算

プログラム参加で 自己肯定感醸成

■自信が付き、勤労 意欲が醸成された

(試算値)

社会的価値 約327万円 試算

就労準備にて 就活スタート

■就職活動を開始した

54人 **** (試算値)

社会的価値 約319万円 試算

就労決定

■就職が決定し、次の ステップに進んだ

社会的価値 約2,166万円/年 試算

えられる側から

■地域企業との信頼 関係を構築し、後進の育成したいと考え 始めた





人材不足に悩む企業に対するインパクト

若者イメージの変化

■「課題を抱えた若者は現実逃避し ている」「性格が暗いと感じる」「なまけている」「よくわからない」 とかんじていた若者に対するイメ-ジが、実際に受け入れを進めるこ とで、ポジティブなイメージに転換 されている。

雇用イメージの変化

■「若者に適当な仕事がない」「若 者は作業効率が低い」「若者との コミュニケーションが困難」という 雇用イメージを持っていた企業が、 -ションが困難」という 実際に受け入れを進めることで 不安やネガティブなイメージが払 しょくされている。

若者を雇用するメリット

■若者を受け入れるメリットとして「職場の雰囲気が良くなる」「地域社会の評判が良くなる」「職場のコ ミュニケーションがスムーズになる」 「労働力不足の解消につながる」 等、多くのメリットがあると感じる企 業、従業員が増加した。

〇内閣府

(5)メディア等掲載

平成 28 年 5 月

月刊支え合い情報に法人の活動が紹介されました

平成 28 年 5 月

河北新報に「こころの健康ワークブック」の記事が掲載。

平成 28 年 6 月

いしのまき NPO 日和に石巻 NOTE が紹介されました

平成28年6月

石巻日日新聞 NPO 日和に石巻 NOTE の活動が掲載されました

平成28年7月

河北新報に代表高橋のエッセーが掲載されました。

平成28年7月

ダイアモンドオンラインに法人の記事が掲載されました

平成28年8月

河北新報に代表高橋のエッセーが掲載されました。

平成28年10月

精神科臨床サービス第16巻3号に常務理事小野が執筆しました

平成 28 年 10 月

Q&A で理解する就労支援 IPS にスイッチ・センダイから山下と田口が寄稿しました

平成 28 年 10 月

河北新報(夕刊)に代表高橋のエッセーが掲載されました。

平成 28 年 11 月

杜の伝言板月刊ゆるる 11 月号に代表高橋が寄稿しました

平成 29 年 3 月

いしのまきはたらくサポーターセミナーが石巻かほくに掲載されました

平成 29 年 4 月

杜の伝言板ゆるるに事務局長今野が執筆しました

平成 29 年 4 月

働く先輩・企業からのメッセージ集に統括マネージャー小野が執筆しました

特定非営利活動に係る事業

事業名	ル〜徐る争業 事業内容	実施日	実施場所	従事者の	受益対象者	
チルロ	7.7.11	時	JUB-9171	人数	の範囲	(単位:千円)
定款第5条の	<u> </u> (1)障害者の日常生活		 全生活を総合的			
	①自立訓練(生活		2 ②就労移行支援			11心口又及/公/
障害福祉サ	スイッチ・センダ		当法人	9名	障害福祉サ	3234
一ビス事業	\(\tau_{1} \) \(\	土日	コムハ 事業所内	7 11	一ビス受給	0204
一〇八事未	´¹ 就労移行支援事	一人一適	サ木がり		者証取得者	
	│ 孤刃椤⑴又饭事 │ │ 業	宜)			定員 26 名	
	-		1/2± 1	F &7		1070
	スイッチ・イシノ	平日	当法人	5名	障害福祉サ	1072
	マキ		事業所内		ービス受給	
	自立訓練(生活訓				者証取得者	
	練)における事業				定員 20 名	
	0(3)就学支援事業(4	りカウンセ	リング事業(1	1)その他法人の	目的を達成する	ために必要な
事業			T	T	T	
助成事業	JPF「共に生きる	平日	当法人	3名	東松島市、石	7949
	ファンド」ユース	土日	事業所内	(嘱託含)	巻市内	
	サポートカレッ		市内		思春期•青年	
	ジ石巻 NOTE の運				期	
	営					
	みやぎ地域復興	平日	当法人	3名	仙台市内·岩	6937
	支援事業		事業所内	(嘱託含)	沼市内	
	仙台 NOTE の運営		市内		思春期青年	
					期	
	ジョブコーチ支	平日	県内事業所	2名	障害者雇用	2381
	│ │援事業				対象者	
——————— 委託事業	定	款 5 条の	 (7)インター	<u></u>		
	 心の復興事業	平日	ı	3名	石巻圏域の	3154
		土日	地		被災者	
	 定款第5条の(6)	L 研修事業	 ぎに関する重業			
	大学キャリア支	平日	大学構内	2名	大学生 80 名	357
	援事業	TH	八丁 冊	- 11	/ / 구고 W 섭	007
		₩ □	つばほか) A	古战旧市小	004
	宮城県協働教育	平日	宮城県内 	2名	宮城県内小	994
	プラットフォー , ま***				中高校生徒	
	ム事業				及び保護者	

をたいせつにして若年離れ、そこで、こころのケア





思春期や青年期の不調に向き合い、 「働きたい」「学びたい」を応援

食をとり、年後のプログラム もいれば、周囲のお店で昼 習に励む。午前中で帰る人 の関りで、4人がキーボー に参加する人もいる。教材 ドのタイピングなどの個人線 マバソコンは、連携する日本 イクロソフト社から無償提

で、利用登録した人たちが ワォーキングやスポーツ。 や就職活動のためのメイク でごし」を支援する場だ。

アラブなどを行う。 用意し、同行支援やフォロー 戦場体験プログラムなどを 興味のある分野を学ぶ。 に通いながら体調を整え 多く、参加費は無料。ここ に参加する。10~20歳代が作業などのプログラムに自由 きたい人向けには、有絵の

グラフの作成を学んだ。 人が参加。エタセルでの表と にパソコン講座が開かれ、2 この日は10時年から12時 し、被災者支援に切り替え 日に東日本大震災が発災 開始した経緯をもつ。 て仙台市や石巻市で活動を 同年6月に住台市で精神

の機能体験プログラム「バ に行う仕事を除す まざまな体験を乗れて白分 を始めた人が多く、スタッ だ。メンテルヤアにあたるの目が統分のための利用 者数は210人。その4分の登録者は55人。 観べ利用 フの作業型支援により、 天候団体や学校、行政機関 短期が多い素操作験プロ は別人が利用し、有額

や高乗、おか当の製造、自社から担社に増加、水産業 親京安全後間、飲食サービ す、協力企業は、当時の活 サーの今野親太郎さんは前 通性を見得のることができ な体験を重ねながら目分の NOTE 機能プロテルー も、統件・統分コーデー

んある」と位務技事業石物 ら事では会のと

このかのの関する。 が高遊付きで夢らしている人 作業の基本から販売までをノマキ・ファーム」では、森 いる人や、収益住宅・復興 作験できる、迷路に扱んで 法人が直付する機関「そう

ユースサポートカレッジ 石巻NOTE



常務理事兼石巻 NOTE 統括プロデューサー 純太郎さん 今野

「若者の「働きたい」「学びたい」という

協力企業は別社!

石巻区の丁三の日午度

前向きな思いを応援する。

巻 XOTEの向かい値に 「スイッチ・イシノマキ」 を掲載し、現在4つの事業 所を述入のスタッフで運営 する。 NOTE | を、15年には石棚出した。無料年に「食む SHIDNERS TIE

さため、単なる政権活動で は行られない「難」や「高」 会との様式を検索である。 や「横」にふれながら、

心の推薦しは、単分を 5人が就職につな 我の中男的な職業体験の場 人のために、本格的に舞り

> 無く環境としての7 素でも検討でもない第3の

> > NPO法人や大学講師らでつく

人などつながりのある人々を挙げ

仙台の有志中学生向け冊子作成

「まず相談を

の機能を定定させる

チームワークを受び、活の差。 共同作業をとおして 旅師との交流から一次産業 たとえば、松籟の出荷作

> 数据でのパイター ことができればと意気込む

での報やし

また、お母×OTEか いという日都もある。

用解して栽培体験を受け

れてくださる必要がたくる

すること、今日も、将来をこいう協助さな思いを応援 泰は、宮城県全域でお客 「夢をない」「歩びない 人材を堪かな目で見け

〇〇かんに合く仕事だめ、 させていただき、これは前にスタッフが仕事を体験 と成婚してコーティネー することを参い」と話す。

(行業を管理する)と行う でのコミニケーションやナー知識れの人もいて、多世代 西・雅の組え付け、水やりの中島薬を使わず、草取りの のる。 揺れた野薬は、石物

今年度は極を広げて、心・安全な野連は経済だ 質っていくお客様もいて いる。大俣を10本まとめてり、当内の飲食店におして

力量やコミュニケーショ

中間的試分の場

ン、技術家などで厳和から

みながらプログラマー おり、現在はアルバイトに動 点滴点で合格した高校生も

思春期や青年期の

は4人。これからの石巻をち、10歳代は2人。20歳代

して腕を磨く。

この日業まった6人のう

支えるたいせつな人材だ。

シリン講座、

不調に向き合う

日に放揚げしたが、同月11 動法人Swit のある人たちの就労を支援 動法人SSitch。障害るのは、認定特定非営利活 石巻NOTEを運営す

イッチ・センダイ」を立ち脱労移行支援事業所「ス い、次の仕事の目途が立た災をきっかけに職場を失 校や職場から足が進のく若に馴染むことができずに学 ずに悩む人や、新しい環境 上げる一方で、石巻市で鑑 障害のある人を対象とした

29年。うつ病など心の疾患をイラ ストレス対処法のほか、家族や友 ストやデータを交えて分かりやす ほしい」と訴える。 く解説している。自分自身で行う ワークブックはB5判、カラー

ックを発行した。実行委は「誰か 康を保ってもらうためのワークブ 実行委員会」が、中学生に心の健 に相談することの大切さを知って 「みやぎこころのデザイン教育 発活動に取り組み、13~15年度は の養護教諭に配布し、今後の出前 た。ワークブックも県内の中学校 ョップ中心の出前講座を実施し 中学校と高校計約30校でワークシ するページも設けた。 高生を対象にメンタルヘルスの啓 文部科学省の委託を受け、県内の 実行委は2012年に発足。 自分の役割や相談相手を確認 中

い人」と考え、悩みを抱え込む子 む。一方で「相談するのは心が弱 どの問題を抱える県内の学校現場 では、スクールカウンセラーの配 徒の心のケアやいじめ、不登校な 講座で活用する。 どもも少なくないという。 置拡充など相談体制の整備が進 東日本大震災で被災した児童生

ワークブック できる」と話す。 し、他者に手を差し伸べることも 防につながる。差別や偏見をなく 正しい知識を身に付けることが予

の高橋由佳理事長は「若い頃から PO法人SWitch(仙台市) る若者の就学就労支援を続けるN

実行委事務局で、心の病を抱え



さらなる課題が生まれてきました。 地域の大人の力と、若者たちの「ホ ロジェクト」など、活動が広がっていま させることで共生社会の実現を目指す イシノマキ・ファーム&マルシェ プ 震災から5年が経過し、石巻では

かった若年者の「就労」サポートや、 学生たちの「就学」サポートを目的に 不登校率の高い宮城県で進路に迷う ポートカレッジ石巻NOTE」を開設 -成25年3月、石巻駅前に「ユースサ これまで福祉事業の枠に収まらな

みです。また、土を耕し、作物を流通 います。「若者UPプロジェクト」は し、有給の職業体験の場を提供して 就労を後押しするために企業と連携 もに、自信を回復するための取り組 Tスキルを習得し就活に活かすとと 「バイターン」では、被災地の若者の

開設から3年が経過し、石巻NOT

引きこもり最多は40代という宮城県岩沼市調査

地上正樹: ジャーナリスト +

バックナンバー一覧へ

MARIET BALL DEF

G-I 🔲

東日本大震災の被災地の自治体では初めてとなる「引き こもり」実態調査が行われ、ふだん見えない長期化・高年 齢化した当事者たちの存在が、データで明らかになった。

実際調査を行ったのは、NPO法人「Switch」で、委託を 受けたNPO法人「地里社」が実施し、社協が協力した。調 査は、昨年度の事業として行われ、このほど『岩沼市ユー スチャレンジプログラム2015事業報告書』の冊子としてま こもり」の実際とは?



o被災略となった自治体における「引き

同市は、2011年の鑑災で、行方不明や関連死も含めて187人の犠牲者を出し、2340棟余りの家屋が 全壊・半壊の被害を受けた。

同市では、生活困窮者自立支援事業の相談窓口を市の社協が開設していたことから、被災地で就学・ 就労支援事業や中間就労の場づくりを続けるNPO法人「Switch」(高横由佳理事長)と社協が連携。就 労支援事業の一環として、調査を同市のNPO「地里社」 (布田剛代表) に委託したという。

同社は、2015年11月、社協を通して市の民生委員73人にアン ケートの調査票を配布。12月から翌年1月にかけて、民生委員30 人から調査票を回収した。回収率は41%だった。

調査では、くおおむね15歳以上で、次に該当するような方を 「ひきこもり等の状態にある者」>と定義し、民生委員に説明し たという。

< (1) 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとん どせずに、6ヵ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方>

く(2)仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はない が、時々は買い物などで外出することもある方>

<※ただし、重度の障がい、疾病、高齢等で外出できない方を除 きます>



『岩宮市ユースチャレンジプログラム2015

まちかどエッセー



高橋 由佳

々に手ほどきしてくれてい ギの束ね方を確がい者の方 校生に農機具の使い方を教 むじいちゃんが不登校の高 あるお母さんはタマネ 本いる皆さんはお互い、どんあるのかもしれません。しか

性保健福祉士、産業カウンセラー。 年仙台市生まれ。心のケアが必要な学生や障が たかはし・ゆかさん 認定NPO法人SWit ず、「農作業をする」 な経歴の人なのか聞きもせ 収

話してくれたことを思い出 した若者が「海のにおいが で仕事をしたい」と力強く やっている人間よりも、里 しました。 好きになったから海の近く であくせくサラリーマンを 資本主義」の中で、 都会

> 解放されるかもしれない ば、つらい思いをして働か ルにもっと選択肢があれ 合う社会になることを願っ こそ、多様な働き方を認め 姿を見て感じます。だから と、彼らの生き生きとした ざるを得ないしがらみから

職業選択や仕事のスタイ

てやみません。

多様性を認め 合う社

動に多くの方々が参加して をする「イシノマキ・ファ 通して心のケアと就労支援 くださいました。 仮設住宅で一人暮らしの ム」を運営しています。 私たちの法人は農作業を そのボランティア活 るーその光景は、

のある方なのか、気に掛か どんな経歴なのか、障がい なるでしょうか。あの人は フィスピルの中だと、どう るようです。 生社会そのものを映してい これがもし、都市部のオ

まさに共 にカキ作業場で就労体験を 望を語る姿から、昨年の冬 強してるんだ」と堂々と希 目標に向かってひたすら作 種する」というただ一つの 農業を目指そろと思って勉 業をしていました。 一人の若者が「俺、

うことを実感している」と 私たちは、働き方そのもの 問題を抱える時代となり が一生に一度、心の不識の 書いています。5人に1人 かな生活を送っているとい 金はないけど、はるかに豊

を考え直さなければならな くなったともいえます。

まちかどエッセー

高橋



由佳

まちかどエッセー

るものばかりです。 本人の「生きる力」を感じ 薬を遂げた人々の姿や、日

例えば、石巻川開き祭り

吹き流しの中をくぐって歩 を知りました。短冊は、書 それぞれの意味があること

居ることが、自然と心に安

Ch理事長)

(認定NPO法人SWーt

常の中にこそ、コミュニケ なで考えたり。何げない日

ーションを学ぶ場があり、

の上連を願うものだとか。

しはどんなのがいいかみん かを話し合ったり、吹き流 夕飾りを作りました。 高橋 由佳



う。藩制時代から受け継が まった祭りも少なくありま うに、先人の知恵が多く詰 ら続く石巻川開き祭りのよ れた仙台七夕、大正時代か 祭りが開かれることでしょ ます。

すが、これからも各地で夏 に始まりました。 927 (昭和2) 年、不景 気を吹き飛ばそうと、商家 を復活させたことに始まり の有志が華やかな七夕飾り 今の仙台七夕まつりは1 の準備を協働で行うこと自 のさまざまな研修やプログ ニケーションの練習になっ 体が、自然派生的にコミュ ラムがありますが、お祭り

ているようです。 活動中の皆さんと一緒に七 私たちの団体でも、就職

とだけやってみたのです ょうか。実は、私もちょつ 「ボケモンGO」なのでし

を忘れるほど気持ちが傾い な笑顔を見るとそんな時論 てしまいます。 ールですが、あふれるよう

短冊にどんな願いを書く

でん。まちの歴史の中で偉 コミュニ ケーション

七夕の七つの飾りには、

ストーリーに出合います。 私の会社動務時代はパークではまざまな方の「働く」 ないかということです。 ッフが就労支援を通じて日 緒に仕事を探しながら、 私たちの法人では、スタ 礎を築いた川村孫兵衛の偉 業をたたえ、水難事故で亡 改修に力を注ぎ石譽発展の は江戸時代、北上川河口の ョンカーを身に付けるため ます。 いた子どもの頃を思い出し 近頃は「コミュニケーシ

将来の働き方を考えていく スはキーになっています。 上で、ワークライフパラン

ル全盛期で、「お金」が仕 事のステータスの一つだっ かき消されてしまうのでは 枠組みに縛られ、それらを お金さえあれば安心・安全 たように記憶しています。 私の会社動務時代はパブ ない生き方は、イコール自 した。また、お金に依存し る大学生の皆さんから「就 ているようにも感じます。 分らしい働き方になってき が幸せの一つになってきま 働き続けることができるか 最近、ボランティアに来

てきた今、改めて自分らし てきたことができなくなっ や介護離職の問題など、家 の社会変容から、待機児童 きたいと思いました。 い働き方に関心を持ってい 族システムだけで支え合っ

ンツールの一つといえば、 最近のコミュニケーショ

堵感をもたらすのだと感じ

こちらもうれしくて会話が 弾みます。質否両論あるツ が、若いみんながいろいろ で、びっくりすると同時に、 と思うほど笑顔いっぱい と数えにきてくれます。 こんなに話せるんだね、

自分らしい 働き方とは

ながらも、「会社」という という気持ちを片隅に持ち で「誰かの役に立ちたい」 場で思うのは、人はどこか POという枠組みで働く立 うに思います。私自身もN 最近の社会の潮流でしょ いう概念が変化しているよ ど、所有することで幸せに ったのではないかと思うほどんな社会貢献ができるか もずっとこの日常が続くのネスの分野を考えている」 りも、いかに健康で楽しく 分にはありません。それよ「頃と比較してしまいます。 なるという感覚は、もう自 だと信じた時代でした。 な生活が保障される、将来 今は、消費の時代は終わ という声を聞きます。どん 職先としてソーシャルビジ ばらしいなあと自分の若い を考えているとのこと。す な企業なのかという前に、 そういった選択肢を若い (認定NPO法人SWIT

入を得るためだけではない いと感じ始めているのと同 の世界経済がマネーゲーム も、リーマンショック以降 場企業へ就職することや収 から脱却しなければならな 方々が持つようになったの はないかと考えます。 と思う若者が増えたからで 様に、働くことが、単に上 少子高齢化・核家族など

まちかどエッセー

がありますが、寒暖差疲労 たいよる自律神経の乱れは、 特に季節の変わり目に気を ないますが、寒暖差疲労 た

稿などの痛みを伴う体の不 ケースもありました。

ていますが、季節の変わり

私たちの法人はメンタル

が、心の不調のサインはどが、心の不調のサインはど

産業医などの面接を受け助

スの状態を知ることでため

は大丈夫」などと過信して

に防止するものです。事業 メンタルヘルス不調を未然 言をもらったりすることで ストレスが高い状態の時は 過ぎないよう対処したり、

出動です。

(認定ZPO法人SWit

高橋

やすいのは気温の度くらい

たと何かの本で読んだこと いています。人間が導し つも通りの毎日に戻ったも

の念で悩んでしまうという

た。労働者が自分のストレ

「ストレスチェック」を競 労働者の人以上の事業所に

0

健康

を考える

いごろと宣言しています。

まさに世界中が心の健康

のの、残暑厳しい日々が続

ことに気付かないまま過ご

事のストレスを抱えている していた方が、ある日突然

御安全衛生法が施行され、



したリオ五輪も終わり、い種得し多くの感動をもたら

する方もいます。また、仕

過去最多4個のメダルを

何となく気力がなく何もし

だけセルフケアを心掛ける

ようにしています。

に感心してしまいます。 く、工夫された空間づくり の本へのコメントも興味深 ボップが飾られ、図書委員 **審室は、入り口にすてきな** とがあるのですが、その図

まちかどエッセー



読書 0

四季のはても・**

「こことを紹介し合い、どの い・不安という感情も共感 そ、他にいき敵ともいうない。 という読書会を与せて、 ジの い・不安という感情も共感 そ、他にいき敵ともいうなが動物や本を て準備をする生徒さんの姿 れしざを共感する悪霊があ はやっし 一般まなくなったという話を を見掛けたりします。 ピブ りまず。 同時に、楽してだ 自分の続きなくなったという話をを を見掛けたりします。 ピブ りまず。 同時に、楽してだ 自分の続きなくなったという話をを を見掛けたりします。 い・不安という感情も共感 そ、他にいきからない。 という読書会を与せて、 るのだとか。 持ちや共感する能力が上が

そ、他者を思いやる気持ち、 ち合う他者がいるからこ 自分の喜びや悲しみを分か いわゆる感情コミュニケー はやっている社会ですが、 いでしょうか。 ションが生まれるのではな 「おひとりさまつつ」が

秋と共感力

共感というのは、ギリシ

があるのですが、その図 決定する、ゲーム感覚で楽仕事で高校を訪問するこ めた本を「チャンプ本」に としても活用されていま 動の面接練蕾のアレンジ版 ーションするので、就職活 みたくなるかをプレゼンテ しめる書評合戦です。 めた本を「チャンプ本」に が、学びの一つなのだと思 すが、人間関係を構築するを投票で決め、最多票を集 思いやる気持ちを育むこと ヤ時代から議論されていま いかに面白いか、読んで

に、共感する脳をタイトル 登場人物の心理を読み取る 読書をすることで、多様な にしたものがありました。 最近、私が読んだ本の中 ました。その共盛力を高め しれません。 を読んでみるのもよいかも ロト理事長) る意味でも、読書の秋に本 上で重要なこととされてき 「歴定NPO法人SW-t

Pt No hearth ンプラン(2013~20年) ンタルヘルスなしに健康な tal health (x し)」を原則に、予防のた めにセルフケアを心掛けて 世界保健機関 (以H〇) without men

特集 新しい就労支援の取り組み

第2章 就労支援におけるプログラムの紹介・考察

は愛犬の散歩。べろっと頻 られます。私のセルフケア ともいえますが、セルフケ を考える時代になったのだ

をなめられ、今日も元気に

認知機能リハビリテーションは 就労支援にどのように役立つのか

佐藤さやか、梅田典子、小野彩香、池淵恵美

精神科臨床サービス 第16卷 3 号 2016年 8 月 別劇

星和書店

Q&Aで理解する 就労支援IPS 精神疾患がある人の魅力と可能性を生かす 就労支援プログラム 中原さとみ・飯野雄治・リカバリーキャラバン隊 編著



EDITEX





外で小さな農園をスタートしまし が、私たち認定NPO法人S

く」ことに課題を抱えた方だけで

。仮設住宅と復興の格差

市でプレハブ仮設に入居している平成二十九年二月末現在、石巻

り、 お互いが誰かもわからないまま 企業人まで、 帽広い人たちが集ま

地域の多様性を体態する

に向けた最終準備に入っていますにも参加し、現在は本格的な鮮労 一有鉛の職责体験プログラ

の役割を持ち、同じ場所で同じ農 を体験した者詞志として、自然に

「〇三〇年には、石巻市の十五

顧者を少ない若者が支えて行か 十四歳の生産人口は、現 より多くの高 躍し、技練可能 人が地域で活

* 若者たちを地域の担い手に

実現すること

校和 仮設住民は、今までの住み慣れ

中域への愛

なりません。適に一上高

変化して行きます。 両連に向けれなど、多くのことが母まぐるし 地で学び続けたり、働き続けたり 買い物、移動手段、 蒙計状況 とに不安を感じることは、

韓男中高幹、地域、年虧、田 つ低くし、誰もが希望を持っ



で武器」に

の一六、七八八人に比べるとだい

下位第一

行き、高齢者や癖がい者、

て「まなぶ」ことや「はたらく」こと 環境の変化と若者の抱える蹂躪 その中に、沿岸部で被災し、 私たちはこれまで「ユースヤ

ものが、業種の偏りによる「層声

私が子どもの頃は、デパートが

口巻市は、宮城県第二の都市

川沿いに発度し、南店街・

の若者が、石巻NOT

費方にとって、働くことはどのくらい先のことでしょうか?

認定NPO法人 SWitch 常務理事 小野 彩香

様

小さなきっかけから次の一歩へ

ブラ、唯一 が大好きで、高いITスキルを持つ 体系立てた「Tトレーニングを提供二回。午前中の時間帯で、彼らに しました。 それまでゲームのため 被らはゲームやパソコン もあり、週に

ります。最も大きな課題となる

でが続き、体力的な不安と し石巻の交通の使の思さ

ち並び、選末には商店街を歩く

土産物屋などが所貌し

〇一一年、東日本大震災を

これから働く皆さんへ

1. 「自分がどうありたいか」を明確に

とです。 そうです、「働く」を考えるうえで、一番重要なのは、「自分がどうありたいか」というこ 突然ですが、「働くこと」と「幸せ」であることは、共通ではありません。

ことが幸せを感じるのか」ということです。誰と暮らし、どういう顔をして仕事をして、ど 自分の幸せのイメージをしっかり思い描くことです。 んなやり取りがあって、帰宅した後に、どうリラックスする時間があって…。 人ぞれぞれ違う、 を目指すと思うのですが、ここで時間をかけて考えるべきことは、「自分がどう暮らしていく 病気がおちつき、「働けるようになった」とか、「働かなくては」という状況になり、「働く」

最初からできていたわけはありません。 や「こうありたい」像を、様々な体験を通して悩んでほしいと思います。先輩方の多くも、 じます。自分の時間の週ごし方を、自分で決める主体性を持っています。 ですから、就職するための目先のスキルを磨くことも大事ですが、未来の自分のイメージ

継続している方の多くは、「自分にとって良いか」を客観的に捉えられている方が多いと感 なぜ、それが重要かというと、職場定着支援で、継続している方の大きな共通点だからです。

用するかどうかは別として、それぞれに療養と人生のス ダートを切ってよいか、誰でも悩みます。ご本人ももちろ 年間100名程度の新規相談があります。実際に施設を利 少し長い付き合いになる精神疾患は、上手に付き合えるよ んそうですし、家族も同じです。特に、風邪などとは違い、 トーリーがあります。どの方も、紆余曲折を経て、「何と 精神疾患がある方の就労支援に特化したスイッチには、 自分の思い描いていた人生でなくなった時、どう再ス

うになるまで、時間がそれなりにかかるようです。

- 104 -

か働きたい」という強い思いがあることが共通です。